

1. 地域概要

計画名	出雲大社周辺エリアにおける渋滞対策及び持続可能な観光推進事業
対象エリア	出雲大社周辺エリア
実施主体	出雲市
年間観光客入込数	約1,209万人(2023年)
年間延べ宿泊者数	約84万人(2023年)
主な観光資源	出雲大社、神門通り、稲佐の浜、古代出雲歴史博物館、旧大社駅（重要文化財）



出雲大社



稲佐の浜

● 観光ビジョン

**期待（来たい）が膨らむ観光のまち出雲、
365日楽しめる出雲**

- 「縁結びの聖地」「神話のふるさと」として広く知られ、出雲大社をはじめ、出雲日御碕灯台やジオパーク、日本遺産「日が沈む聖地出雲」に認定されるなど、出雲の魅力ある観光資源を効果的に組み合わせた取組を展開し、周遊滞在型観光に繋げる
- 秋季と冬季などの繁閑差が大きいことから、各エリアの魅力を効果的に発信し、通年365日楽しめる出雲を目指す
- 地元住民と観光客双方に快適な観光地の実現を図るため、観光資源に負荷をかけ過ぎることなく、中長期の視点で保全と活用のバランスを保った観光振興を目指す

● 推進体制（協議の場）

大社交通渋滞対策実行委員会

- 大社地域内の年末年始、ゴールデンウィーク、盆休み等の歩行者の安全と交通渋滞の緩和を推進することを目的として、委員会を設置

主な構成メンバー

行政機関	商工団体等	地元団体
出雲市	出雲観光協会	出雲大社
島根県	出雲商工会	出雲教
国土交通省	一畑電車	大社地域自治協会連合会
出雲警察署	一畑バス	大社旅館組合

2. 課題

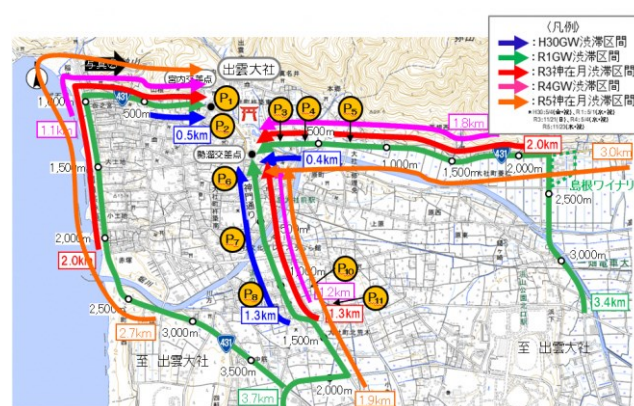
● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
深刻な交通渋滞による観光客や住民の満足度低下	- ゴールデンウィーク(GW)や神在祭期間、年末年始等、駐車場混雑に伴い周辺道路の渋滞が発生 (R5最大渋滞長、GW2.7キロ、神在祭期間3.0キロ、年末年始3.5キロ) - 交通渋滞の発生により、観光客・地域・住民、多方面にネガティブな影響が出ている ✓ 渋滞による時間のロスなどによる観光客満足度低下 ✓ 時間ロスによる周遊機会の損失 ✓ 観光車両の生活道路への入り込みにより地域住民が自宅から出られない、帰れないなど日常生活に大きな支障が発生	観光客 地域 住民

深刻な交通渋滞による観光客や住民の満足度低下



神門通りの渋滞状況



平成30年から令和5年
大型連休・神在月における渋滞区間



生活道路への観光車両進入

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

1. 場所や時期の集中

- ・メイン観光地である出雲大社付近に駐車しようとする車が多く、渋滞が発生しやすい
- ・シーズンに観光客が局所的に集中し、渋滞や混雑が発生しやすい

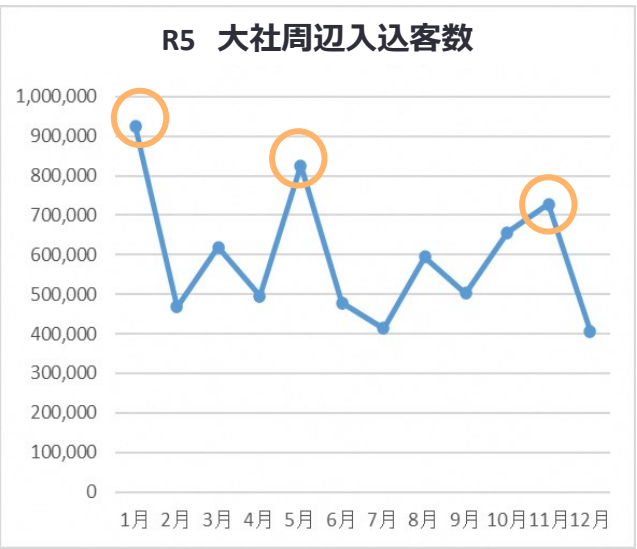
2. 渋滞状況の変化

- ・テレビ番組の報道の影響により、出雲大社に向かう主要道路の渋滞状況が変化しつつある
- ・これまでの経験と勘に基づき渋滞対策実施日を決定しているため、適切な渋滞対策を実施できているか不明
- ・渋滞対策日のみ渋滞状況等のデータを集計しているため、他日の渋滞状況が不明

3. 渋滞対策にかかる経費増

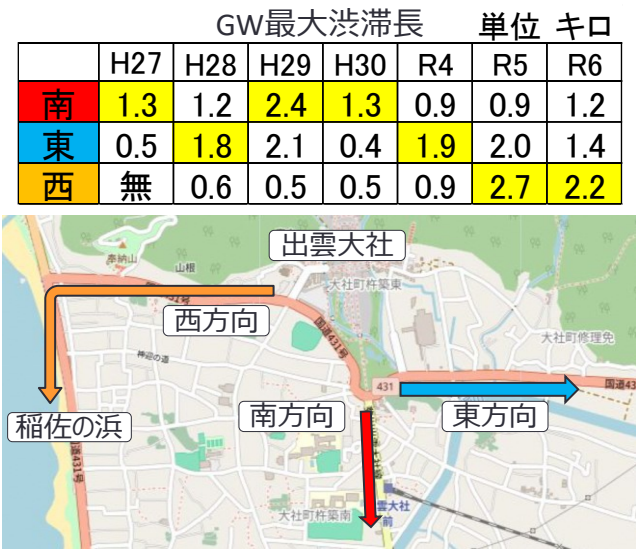
- ・人件費等の上昇により、渋滞対策にかかる経費が年々増加
- ・渋滞対策内容を拡充したくとも、予算不足により、かえって渋滞対策実施日・内容を縮小している状況

1. 場所や時期の集中



- ・年末年始、ゴールデンウィーク、神在祭期間に観光客が集中している

2. 渋滞状況の変化



- ・平成30年11月に稲佐の浜がテレビ番組で紹介され、コロナ禍収束後に、稲佐の浜方面（西方向）へ渋滞が延長するように変化

3. 渋滞対策にかかる経費増

令和6年度 予算書		
(単位:円)		
収入の部		
科	目	予算額
款	項	本年度
1.	寄附金	320,000
2.	協賛金	150,000
3.	負担金	23,000,000
4.	雑収入	117
5.	繰越金	47,883
	計	23,518,000
支出の部		
科	目	予算額
款	項	本年度
1.	事業費	23,481,000
	1. 需用費	900,000
	2. 役務費	11,000
	3. 賃借料	230,000
	4. 委託料	22,340,000
2.	事務費	25,000
3.	予備費	12,000
	計	23,518,000

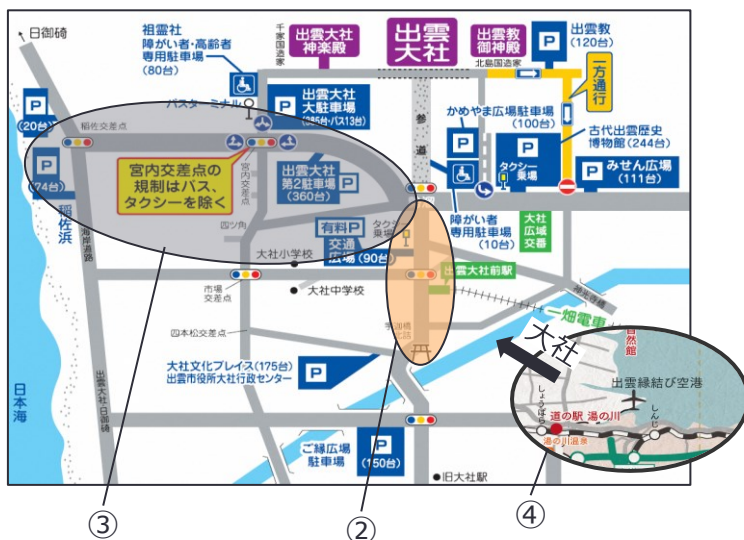
- ・大社交通渋滞対策実行委員会の令和6年度予算では、人件費を含む委託料の占める割合が高い（年々増加傾向）

4. 対策の概要

- GW、神迎期間、年末年始の多客日は、昼間時間帯に観光客が集中し渋滞が発生するため、混雑予報情報をウェブサイトで発信する
- 従来の渋滞対策（駐車場確保、シャトルバス運行、交通規制等）だけでなく、駐車場の有料化に向けた実証や持続可能な対応策についても検討する

エリアマップ

全域: ①



調査・分析

取組み

①多客日における渋滞対策の強化

（ETC2.0プローブデータを活用した渋滞予測作成、駐車場協力金の実証）

- これまでの対策実施状況と渋滞状況の分析
- データ分析に基づく多客日のランク分け、対策実施（臨時駐車場の確保、シャトルバス運行、交通規制等）
- 混雑予報と広報強化
- 駐車場有料化に向けた駐車協力金の実証実験
- 持続可能な対策案の検討

内容

- 今までは経験と勘に基づいた渋滞状況予測と渋滞対策をしていたため、ETC2.0の情報を生かしたデータ分析を実施する
- 多客日のランク分けを始めとした各種対策を実施し、渋滞発生に対応できるようにする
- 新たなwebサイトを構築し混雑予報情報等を発信することで渋滞緩和を図る
- 渋滞対策費を捻出するためにも駐車場有料化に向け実証実験や持続可能な対策案について検討する

受入環境の整備・増強

取組み

②エリアwi-fi導入

内容

- カーナビ情報のみに頼り、出雲大社に隣接する駐車場を目指す車両による渋滞が発生している。ホームページにアクセスし渋滞情報を取得できるようにエリアWi-Fiを導入する

取組み

③グリーンスローモビリティの実証運行

内容

- マイカーやレンタカーの代わりに気軽に利用できる二次交通を整備し渋滞緩和を目指す

取組み

④空港連絡バスのキャッシュレス決済システムの導入

内容

- 空港連絡バス発券機で混雑が発生し、発車時間が遅延し乗継等に影響がでているため、キャッシュレス決済を導入し、定時出発を目指す

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 客観的なデータではなく、これまでの経験と勘に基づき渋滞対策を実施
- 特定の時期に観光客が集中

取組み

ETC2.0プローブデータを用いた交通情報の分析の実施 混雑予報カレンダーの作成、将来的な渋滞対策案の策定

- 実施期間：令和6年11月～令和7年2月
- 実施主体：出雲市

事業内容

①：ETC2.0プローブデータを用いた交通情報の分析

- ETC2.0プローブデータを用いて、「令和5年度の出雲大社周辺の交通情報のデータ分析」及び「令和6年度の実証実験期間（神在月～年末年始）の交通情報のデータ分析」を行い、客観的なデータに基づき将来的な渋滞対策の在り方を検討
- ETC2.0プローブデータは国土交通省が管理しており、生データでの提供が受けられないため、データ加工にかかる経費を負担し、提供いただく

②：混雑予報カレンダーの作成、将来的な渋滞対策案の策定

- データ加工及び、加工されたデータの分析に基づき、混雑予報カレンダーを作成し、新たに構築したWebサイトで公開するとともに、将来的な渋滞対策案を策定

混雑予報カレンダーの公開



(<https://www.taisha-traffic.net/>)

渋滞状況分析結果に基づく渋滞対策の計画策定（イメージ）

5月	行事	R1 出雲 IC出	R2 出雲 IC出 予想	R1 団体 バス	体制	勢溜 規制	警備 員	情報 発信	民地	S バス	バス コン
1日	金										
2日	土				A		○				
3日	日				B	△	○	◎	☆		
4日	月				B	△	○	◎	☆		
5日	火				B	△	○	◎	☆		
6日	水				A		○				
7日	木										
8日	金										

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- A : ETC2.0プローブデータを分析することで、客観的な数値に基づいた渋滞対策を検討する**
- B : 混雑予報カレンダーを作成し、観光客の分散を図る**

事業の成果／目標の検証結果

- A : 令和6年度の実績とデータ分析に基づき、将来的な渋滞長を予測し、渋滞対策の策定根拠として活用することが可能となった**
- B : ・神在祭期間の最長渋滞長は全方面で短縮**
- ▶ 西側 : **0.8km短縮** 南側 : **0.8km短縮** 東側 : **1.2km短縮**
- ・カレンダーのPV数が増加**
- ▶ HP公開後PV数 : **1,433/日** (例年の約1.5倍)

成果詳細

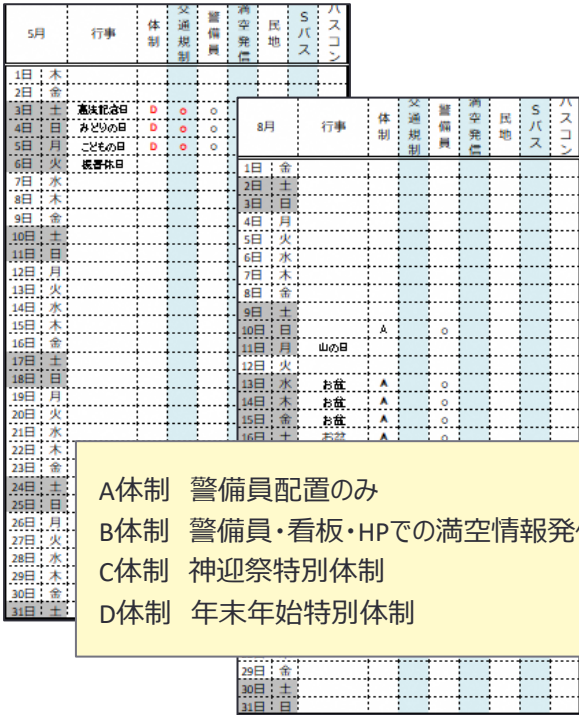
【結果】

- プローブデータの分析結果をもとに**混雑予報カレンダー**を作成し、10月24日にホームページにて公開。
- 混雑予想カレンダー公開後のPV数**は、10月10・16・17日の平均値で1,433/日（R元年：969/日、令和5年：980/日）と、**例年比約1.5倍に増加**
- 神在祭期間の**最長渋滞長は全方面において、R5年度と比較し短縮**
- 令和6年度の結果を踏まえ、来年度の渋滞対策案の検討を開始（右図）
神在祭期間の最長渋滞長

	R5年度	R6年度
西側	2.7km	1.9km
南側	1.9km	1.1km
東側	3.0km	1.8km

【課題】

- ETC2.0プローブデータ（国土交通省が所管）の生データ提供はできない規定になっているため、データ加工の業務委託時間・費用がかかる
- 分析の精度を向上させるためには、長期にわたるデータの積み上げが必要
- 今後、ETC2.0プローブデータ加工経費が毎年生じることは大きな負担になるため、ビッグデータとして無償または安価で提供されることを強く望む



令和7年度大社交通渋滞対策（案）

5. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 人件費等の高騰による渋滞対策経費の不足

取組み

駐車場有料化に向けた交通対策協力金の実施

- ・ 実施期間：令和6年11月～令和7年1月
- ・ 実施主体：出雲市

事業内容

■ 交通対策協力金の実施

- ・ 実施期間：令和6年11月1日～令和7年1月5日
- ・ 実施場所：出雲大社周辺の駐車場（かめやま広場、歴博、みせん広場）、神門通り・神迎の道・お宮通り・宮内周辺の飲食店及び土産物店
- ・ 協力金額：1台あたり200円
- ・ 支払方法：駐車場の出入り口付近、店舗等のレジ付近の募金箱にて支払い（現金、QR決済）

【背景・目的】

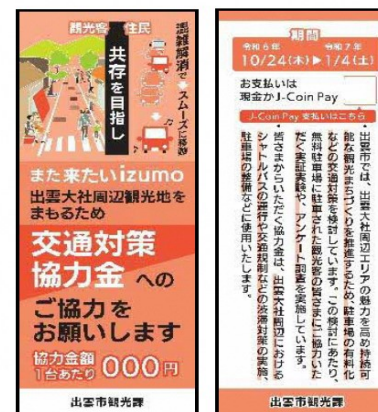
- ・ 現在の渋滞対策にかかる経費の財源は、出雲市の負担金及び大社交通渋滞対策実行委員会メンバーの協賛金・寄附金
- ・ 出雲大社周辺駐車場の多くは無料駐車場であるため、持続可能な渋滞対策の在り方として、駐車場有料化を検討

出雲大社周辺地図



駐車場に設置するした看板・協力金箱

駐車場に設置するもの
1か所につき 看板2枚＋募金箱1台



H1,500*W550 両面



H1,140*W360*D280

5. 主な取組み（詳細）

課題

- ・ 人件費等の高騰による渋滞対策経費の不足

取組み

駐車場有料化に向けた交通対策協力金の実施

- ・ 実施期間：令和6年11月～令和7年1月
- ・ 実施主体：出雲市

事業内容

■ 交通対策協力金に関する観光客ヒアリング

- ・ 実施期間：令和6年11月10日、11日、16日、17日、令和7年1月1～4日
- ・ 実施場所：外苑駐車場、第2駐車場、かめやま広場、古代出雲歴史博物館、みせん広場
- ・ 実施方法：各駐車場に調査員1名を配置し、通行する観光客に調査協力を依頼
交通対策協力金に関するチラシ（右下図）を見せながら説明し、各調査項目を聞きとり
- ・ ヒアリング項目：
 - ・ 交通対策協力金の1台あたりの協力金額について
 - ・ 駐車場の有料化に対する考え
 - ・ 出雲大社周辺の駐車場を有料化した場合の行動
 - ・ その他ご意見等



観光客ヒアリングの様子



交通対策協力金に関するチラシ

成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

- 「交通対策協力金」徴収の実証実験及びヒアリング調査を行い、**駐車場有料化に向けた課題を明らかにする**

事業の成果／目標の検証結果

- 有料化に関し、**利用者からは概ね理解が得られる見込み**であることが判明した一方、導入に向けては**施設所有者の意向や整備費用が課題**となることが明らかになった
＜実証実験の結果＞
 - ▶ **協力金の集金額：約115万円**
 - ▶ **半数以上が有料化に賛成**。協力金(200円/台)について、「安い」、「妥当」との意見が**9割以上**。「安い」回答の**8割以上が400円以上が妥当**と回答

成果詳細

【結果】

- 協力金の総集金額は1,157,613円。駐車場(3カ所)の集金額は約110万、店舗(90店舗)の集金額は約5万円と差が見られた
- QR決済(J-Coin Pay)での集金額は、設置が遅れた(11/22～)こともあり、1,710円と少なかった
- 日ごとの集金額は、神在祭・年末年始等、イベントのある週末に多い傾向がみられた。入込客数が多かったこと、アンケート調査実施のため調査員を配置していたことが要因と考えられる

【課題】

- 周辺駐車場の多くは、出雲大社、島根県古代出雲歴史博物館等の民間駐車場や施設駐車場であり、**有料化には施設所有者の意向や整備費用の課題**がある
- 有料化後の**収入金の分配やランニングコストの負担等を整理**する必要がある
- 出雲大社所有の駐車場においては、参拝者からの参拝料と駐車場料金の二重徴収を懸念されたため、周辺店舗での集金に切替えて実施した
- 今回はあくまで交通対策協力金として実証的に実施した。しかし、導入を決定したキャッシュレス決済システムのうち、大きなシェアを持つシステムでは寄附金目的の使用が認められないケースが多く、シェアの小さなシステムで実証を行った

交通対策協力金 集金表

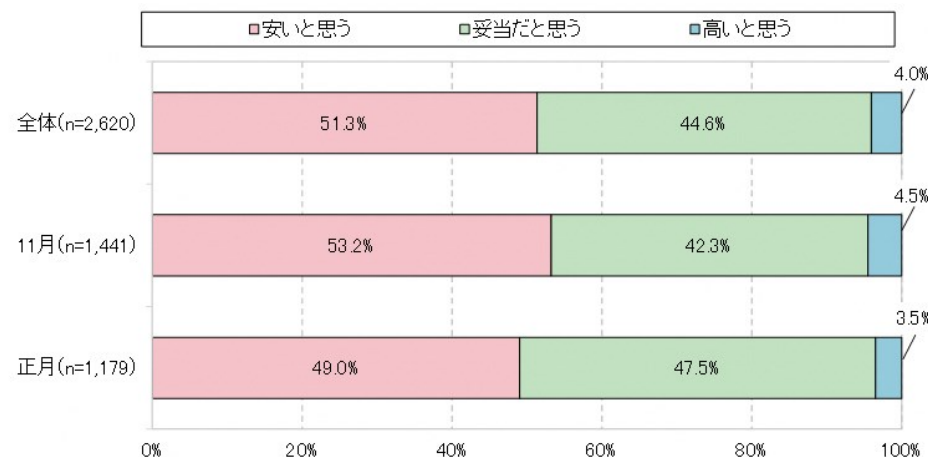
区分	実施場所	協力金(円)
駐車場	かめやま広場	641,158
	歴博	343,619
	みせん広場	120,572
小計		1,105,349
店舗	90カ所	50,554
J-Coin Pay	駐車場及び店舗	1,710
合計		1,157,613

※設置期間

駐車場：令和6年11月1日～令和7年1月5日（66日）
店舗：令和6年11月1日から随時～令和7年1月5日
J-coin Pay：令和6年11月22日～令和7年1月5日（45日）

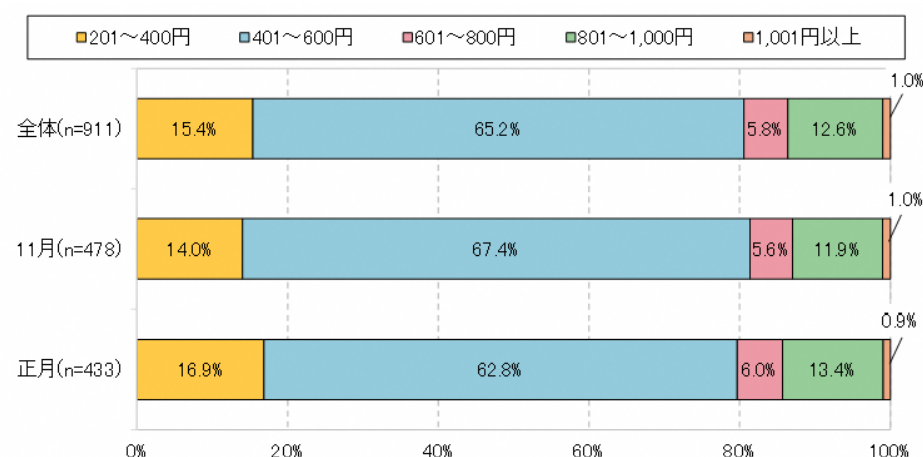
成果詳細

① 交通対策協力金の1台あたりの協力金額について



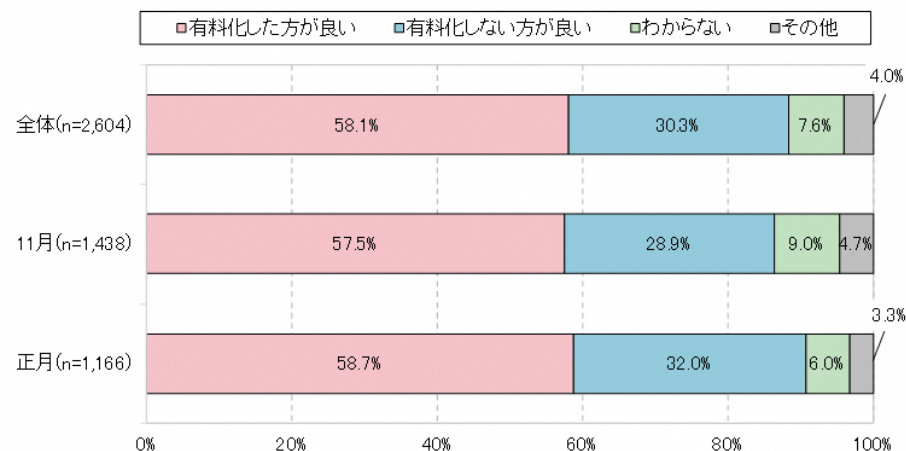
交通対策協力金(200円/台)について、「安いと思う」、「妥当だと思う」という意見が9割以上

② 「安いと思う」と回答した人の妥当だと思う金額



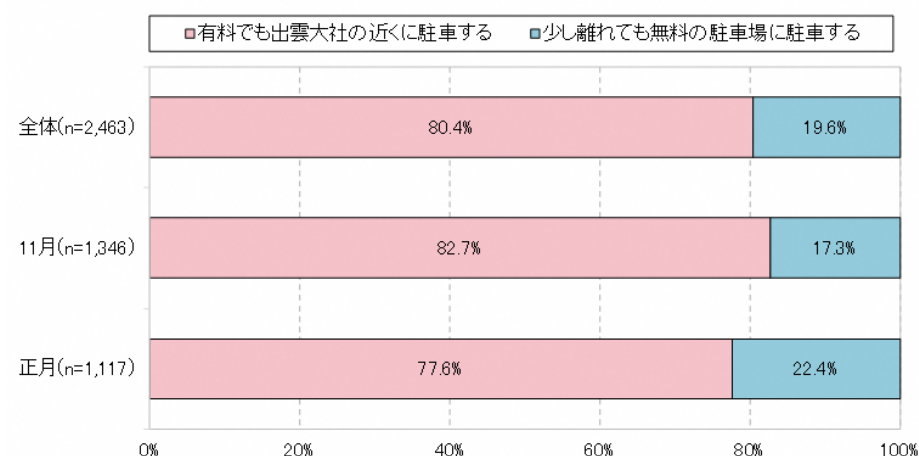
安いと回答した人の8割以上が、400円以上の金額を妥当と回答

③ 駐車場の有料化に対する考え



半数強が駐車場有料化に賛成

④ 出雲大社周辺の駐車場を有料化した場合の行動



約8割が有料でも出雲大社の近くに駐車すると回答

令和6年度取り組みから見えてきた課題

1

渋滞の解消に向けた総合的な対策の継続

- ・ 神在祭時、西側の渋滞長を短縮することができ、生活道路への影響を縮小することができた
- ・ その他の方角についても昨年度と比較すると渋滞長は減少したが、渋滞の完全な解消は難しかった
- ・ 引き続き、混雑カレンダー公開、交通規制、シャトルバス運行、警備員配置、臨時駐車場の確保等、多客日対策を総合的に実施し、渋滞解消に努めていく必要がある

2

交通データの継続取得

- ・ ETC2.0プローブデータの加工に時間と費用がかかり、市の予算では継続的なデータ取得は困難
- ・ 来年度以降の混雑カレンダー作成については、ETC2.0以外のデータの活用も視野に入れる必要がある

3

有料駐車場の実現可能性の再検討

- ・ シェアの小さいQR決済しか使うことができなかった
- ・ 多客日の徴収金額は多かったが、全体を通してみると徴収額は少なく、有料化した際の駐車場設備のランニングコストを捻出は困難

令和7年度以降に取り組むべきと考えること

1

交通規制の継続

- ・ 交通規制は大きな効果が見られたため継続予定
- ・ シャトルバス運行、警備員配置、臨時駐車場確保も予算の範囲内で継続して実施していく

路線バスとの連携

- ・ 渋滞時期は路線バスも渋滞に巻き込まれてしまう状況
- ・ 年末年始は終着点の場所を変更する対応を実施しているため、ゴールデンウィーク等のその他の渋滞時期も路線変更等の対応ができないか、運行会社と協議

新駐車場の整備

- ・ 駐車場容量が不足しているため、新駐車場の整備を行う

2

コストを抑えた交通情報データの取得

- ・ 本年度取得したETC2.0データを有効活用していくとともに、今後は費用の抑えられる別データでの対応を検討（例：NEXCOからのインターチェンジ情報の取得、等）

3

導入可否に向けた協議継続

- ・ 駐車場を有料化した場合は、駐車場設備の維持管理费用との兼ね合いもあるため、導入可否について今後継続的に検討していく